

京都府京田辺市

南田辺西地区発掘調査報告書

北ノ谷古墳群・奥山田池遺跡の試掘調査

2022

京 田 辺 市

南田辺西地区発掘調査報告書

北ノ谷古墳群・奥山田池遺跡の試掘調査

京 田 辺 市

序

京田辺市は、京都・大阪・奈良の中間に位置し、優れた交通利便性と豊かな自然に恵まれたまちです。古くから交通の要衝として発展し、市内には、国指定史跡大住車塚古墳や、国宝十一面観音立像を有する大御堂観音寺、名勝庭園を有する酬恩庵一休寺など、多彩な文化財が所在しています。

近年は、同志社大学・同志社女子大学や多種多様な企業など、最先端の科学技術を誇る関西文化学術研究都市の一翼を担い、新旧の文化や知的資源が融合する新たな文化を創造しています。

本市教育委員会では、平成29年度から同30年度にかけて、関西文化学術研究都市南田辺西地区の整備計画に伴い、地区内に位置する北ノ谷古墳群・奥山田池遺跡の発掘調査を実施しました。調査の結果、遺構や遺物は見つかりませんでした。遺跡情報の更新や、地域の歴史研究における新たな知見を得ることができました。本書は、その成果をまとめたものです。

発掘調査及び報告書の刊行にあたっては、京都府及び京都府教育委員会をはじめとする多くの方々にご指導・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも、文化財の保護と普及にご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和4年3月

京田辺市長 上村 崇

例 言

- 1 本書は平成29・30年度に京田辺市教育委員会が実施した試掘調査の報告書である。
- 2 本書に取めた調査対象遺跡、調査担当者は下表のとおりである。

	遺跡名	調査年度	所在地	調査主体	調査担当者	調査期間
1	北ノ谷古墳群	平成29年度	京田辺市 宮津北ノ谷	京田辺市 教育委員会	綾部美輪	平成30年3月14日～ 平成30年3月30日
2	奥山田池遺跡	平成30年度	京田辺市 三山木奥山田	京田辺市 教育委員会	綾部美輪	平成30年12月17日～ 平成31年1月21日

- 3 調査は、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金及び埋蔵文化財緊急発掘調査補助金の交付を受け実施した。
- 4 本書の執筆及び編集は、京田辺市市民部文化・スポーツ振興課が行った。
- 5 本書に掲載した地図は、本市発行の都市計画図である。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲は京都府・市町村共同ポータルサイト (<http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/top/index.asp>) に掲載する文化財GISデータを基に作成した。国土座標・方位のないものは、上位が北である。
- 6 本書で使用した方位記号は、座標北を表す。
- 7 図版に掲載の調査地空中写真(図版第1)は、株式会社アクセスに撮影を委託した。その他の写真はすべて調査担当者が撮影した。

目次

第1章	はじめに	1
第2章	位置と環境	3
第3章	北ノ谷古墳群の調査	6
第4章	奥山田池遺跡の調査	8
第5章	総括	12

挿図目次

- 第1図 京田辺市の位置
第2図 周辺遺跡分布図 (S=1/30,000)
第3図 北ノ谷古墳群 調査区配置図 (S=1/5,000)
第4図 北ノ谷古墳群 第1調査区平面図・北東壁断面図 (S=1/80)
第5図 北ノ谷古墳群 第2調査区平面図・西壁断面図 (S=1/80)
第6図 北ノ谷古墳群 第3調査区平面図・北西壁断面図 (S=1/80)
第7図 奥山田池遺跡 調査区配置図 (S=1/5,000)
第8図 奥山田池遺跡 第1調査区平面・断面図 (S=1/80)
第9図 奥山田池遺跡 第2調査区平面・断面図 (S=1/80)
第10図 奥山田池遺跡 第3調査区平面・断面図 (S=1/80)
第11図 奥山田池遺跡 第4調査区平面・断面図 (S=1/80)
第12図 奥山田池遺跡 第5調査区平面・断面図 (S=1/80)

図版目次

- 図版第1 調査地空中写真(北東から)
図版第2 赤色立体地図 (S=1/5,000)
図版第3 (1) 北ノ谷古墳群 第1調査区全景(西から)
(2) 北ノ谷古墳群 第2調査区全景(東から)
(3) 北ノ谷古墳群 第3調査区全景(南から)
図版第4 (1) 奥山田池遺跡 第1調査区掘削前(東から)
(2) 奥山田池遺跡 第1調査区全景(東から)
(3) 奥山田池遺跡 第2調査区掘削前(東から)
図版第5 (1) 奥山田池遺跡 第2調査区全景(東から)
(2) 奥山田池遺跡 第2調査区東壁土層断面(西から)
(3) 奥山田池遺跡 第3調査区全景(北東から)
図版第6 (1) 奥山田池遺跡 第3調査区埋戻し後(東から)
(2) 奥山田池遺跡 第4調査区掘削前(東から)
(3) 奥山田池遺跡 第4調査区全景(北から)
図版第7 (1) 奥山田池遺跡 第5調査区掘削前(北東から)
(2) 奥山田池遺跡 第5調査区全景(北東から)
(3) 奥山田池遺跡 第5調査区西壁土層断面(東から)

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

北ノ谷地区は京田辺市三山木奥山田及び宮津北ノ谷に位置する約60haの山林である。当該地では、京都府による関西文化学術研究都市開発が予定されているため、平成29年度から同30年度にかけて、京田辺市教育委員会において範囲確認調査を実施した。調査にあたっては、事前に作成した赤色立体地図及び京都府教育委員会・京田辺市教育委員会の踏査成果をもとに、遺構の存在が考えられる箇所を絞って調査区を設定した。

第2節 調査の経過と体制

平成29年度

(1) 測量

平成29年12月から平成30年2月にかけて、開発予定地全域の航空レーザ計測を行い、高密度かつ高精細な地形データの取得を行った。取得したデータにもとづき、赤色立体地図を作成した(図版第2)。

(2) 北ノ谷古墳群発掘調査

平成30年3月14日から20日にかけて調査地及び周辺の除草作業を行い、22日より掘削を開始した。掘削はすべて人力で行った。同26日に掘削を完了し、27日に記録及び埋め戻しを行った。同30日に資材等を搬出し、調査を終了した。

《調査体制》

調査主体	京田辺市教育委員会
調査責任者	京田辺市教育委員会 教育長 山口恭一
調査指導	京都府教育委員会・京田辺市文化財保護委員会
調査担当者	京田辺市教育委員会 教育総務室 文化振興室 綾部美輪
発掘技術員	有限会社京都平安文化財 濱口芳郎 同 新井龍達
発掘作業委託	有限会社京都平安文化財
航空レーザ計測	アジア航測株式会社

平成30年度

(1) 奥山田池遺跡発掘調査

平成30年12月17日から19日にかけて調査地及び搬入経路の除草・伐採作業を行い、同20日より調査区の掘削を開始した。掘削はすべて人力で行い、第1～第4調査区については、同21日に完

掘した。第5調査区は同25日に掘削を開始し、26日に完掘した。埋め戻しは12月26日から27日に実施し、一部の測量作業を1月17日及び21日に行って、すべての作業を終了した。

《調査体制》

調査主体	京田辺市教育委員会
調査責任者	京田辺市教育委員会 教育長 山口恭一
調査指導	京都府教育委員会・京田辺市文化財保護委員会
調査担当者	京田辺市教育委員会 教育総務室 文化振興室 綾部美輪
発掘技術員	東海アナース株式会社 喜多貞裕
発掘作業委託	東海アナース株式会社

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

京田辺市は、京都府南部の南山城地域の北西部、木津川左岸に位置する。北は八幡市、南は精華町、木津川を挟んで東は城陽市及び井手町、西は生駒山系に連なる田辺丘陵を挟んで大阪府枚方市及び奈良県生駒市と境を接している。市の東部には木津川が流れ、木津川によって形成された沖積平野が広がり、西部には田辺丘陵とそこから流れ出る木津川支流によって形成された扇状地が広がる。

南田辺西地区は市の南西部、田辺丘陵に位置している。北ノ谷古墳群及び奥山田池遺跡は開発予定区域の東側に位置し、標高は約70～110mである。当該地の東側には平成12年（2000）に京奈和自動車道が開通し、さらに東側では大規模な宅地造成が進むなど、近年、景観は大きく変化している。

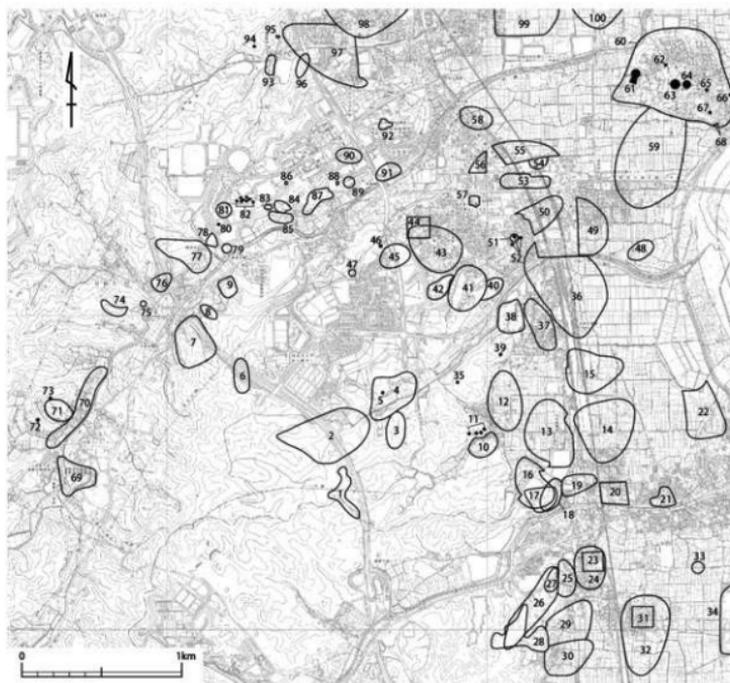


第1図 京田辺市の位置

第2節 歴史的環境

調査地近辺では旧石器時代の遺物はみられないが、西方3kmに位置する天王地区の高ヶ峰遺跡で旧石器時代の遺物が採集されている。縄文時代の遺跡としては、石棒が出土した山崎遺跡（51）が存在する。また、精華町の椋ノ木遺跡（34）でも縄文時代の遺物が見つっている。

弥生時代前期の遺跡としては、土坑などが見つかった宮ノ下遺跡（36）が挙げられる。三山木遺跡（50）では前期の遺物包含層が検出されているが、明確な居住域を示す遺構は見つかっていない。中期では南山遺跡（43）で竪穴住居跡などが検出されているほか、南垣内遺跡（99）では方形周溝墓が、三山木遺跡（50）では墓などが見つっている。後期では集落跡が見つっている飯岡遺跡（60）や田辺



- | | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|------------|
| 1. 北ノ谷古墳群 | 2. 奥山田池遺跡 | 3. 中山田古墳群 | 4. 中山田遺跡 | 5. 葛藩谷古墳 | 6. 西平川原遺跡 |
| 7. 小田垣内遺跡 | 8. 小田垣内北遺跡 | 9. 打垣内遺跡 | 10. 白山遺跡 | 11. 宮ノ口古墳群 | 12. 屋敷田遺跡 |
| 13. 宮ノ口遺跡 | 14. 山路遺跡 | 15. 桑町遺跡 | 16. 薬師山遺跡 | 17. 平谷古墳群 | 18. 薬師寺跡 |
| 19. 西ノ口遺跡 | 20. 前川原遺跡 | 21. 春日神社遺跡 | 22. 元屋敷遺跡 | 23. 下鉾城館跡 | 24. 坪殿遺跡 |
| 25. 鞍岡山遺跡 | 26. 鞍岡山古墳群 | 27. 鞍岡神社遺跡 | 28. 大福寺遺跡 | 29. 下馬遺跡 | 30. 片山遺跡 |
| 31. 里慶寺 | 32. 里遺跡 | 33. 石ヶ町遺跡 | 34. 樟ノ木遺跡 | 35. 宮津古墳 | 36. 宮ノ下遺跡 |
| 37. 佐牙垣内遺跡 | 38. 三山木慶寺 | 39. 江津古墳 | 40. 芝山遺跡 | 41. 西羅遺跡 | 42. 木原城館跡 |
| 43. 南山遺跡 | 44. 南山城跡 | 45. 口胸ヶ谷遺跡 | 46. 口胸ヶ谷古墳 | 47. 多々羅遺跡 | 48. 遠藤遺跡 |
| 49. 直田遺跡 | 50. 三山水遺跡 | 51. 山崎遺跡 | 52. 山崎古墳群 | 53. 二又遺跡 | 54. 東角田遺跡 |
| 55. 田中東遺跡 | 56. 田中西遺跡 | 57. 上谷浦遺跡 | 58. 野神遺跡 | 59. 古屋敷遺跡 | 60. 飯岡遺跡 |
| 61. 飯岡車塚古墳 | 62. 弥陀山古墳 | 63. ゴロゴロ山古墳 | 64. 薬師山古墳 | 65. 飯岡東原古墳 | 66. 十塚古墳 |
| 67. 金泥山古墳 | 68. 飯岡横穴 | 69. 高井鎌遺跡 | 70. 御家遺跡 | 71. 水取城跡 | 72. 錆古墳 |
| 73. 御家古墳 | 74. 王居谷古墳群 | 75. 御所内遺跡 | 76. 大西館跡 | 77. 普賢寺跡 | 78. 観音寺東館跡 |
| 79. 観音寺東遺跡 | 80. 大御堂美山古墳 | 81. 下司館跡 | 82. 下司古墳群 | 83. 新宮前遺跡 | 84. 新宮前館跡 |
| 85. 新宮社東遺跡 | 86. マムシ谷竪跡 | 87. 新宗谷館跡 | 88. 新宗谷竪跡 | 89. 都谷遺跡 | 90. 都谷北遺跡 |
| 91. 七瀬川遺跡 | 92. 田辺天神山遺跡 | 93. 川原谷遺跡 | 94. 酒壺古墳 | 95. 興戸宮ノ前竪跡 | 96. 興戸城跡 |
| 97. 興戸宮ノ前遺跡 | 98. 興戸遺跡 | 99. 南垣内遺跡 | 100. 宮ノ後遺跡 | | |

第2図 周辺遺跡分布図 (S=1/30,000)

天神山遺跡 (92) がある。

古墳時代の遺跡としては、市内最大の前方後円墳である飯岡塚古墳 (61) (全長 87m) が調査地の北東約 3km に位置している。飯岡丘陵には、他にも中期のゴロゴロ山古墳 (63) (円墳・60m) や業師山古墳 (64) (円墳・38m)、十塚 (トヅカ) 古墳 (66) (円墳・25m)、後期の飯岡横穴 (68) などの古墳が点在している。山崎神社周辺の山崎古墳群 (52) は中期から後期の古墳群であり、3基の円墳が確認されている。調査地南東方向には、前期から中期の鞍岡山古墳群 (26) が存在する。また、飛鳥時代の造営と考えられるが、現在の同志社大学京田辺キャンパス内及びその付近には、大御堂裏山古墳 (80)・下司古墳群 (82) が位置している。

飛鳥時代の遺跡としては、調査地北東の三山木廃寺 (38) がある。採集された瓦から、7世紀末頃の建立とされる。普賢寺 (77) (現在の大御堂観音寺) の創建もこの頃と考えられている。また、南東方向には飛鳥時代後期から奈良時代の寺院と考えられる里廃寺 (31) が位置している。

奈良時代には、調査地北東方向の近鉄三山木駅付近に古代山陽道の「山本駅」が置かれたと考えられているが、遺構は見つかっていない。三山木遺跡 (50) では、奈良時代から平安時代の掘立柱建物跡が計 26 棟検出されている。精華町の椋ノ木遺跡 (34) でも掘立柱建物跡が検出されている。

平安時代の遺跡としては上記の三山木遺跡が挙げられるほか、精華町域の下粕廃寺 (下粕城館跡・23) が平安時代後期から中世の寺院跡と考えられている。

中世の遺跡としては、精華町の椋ノ木遺跡 (34) が中世集落跡として知られている。また、調査地北方の普賢寺川沿いの「普賢寺谷」周辺には、室町時代に南山城 (44)、都谷館 (89)、新宗谷館 (87) など複数の城館が築かれたほか、小田垣内遺跡 (7) では、14世紀から16世紀中葉の墓跡が見つかっている。

第3章 北ノ谷古墳群の調査

北ノ谷古墳群は1～4号墳の4基が遺跡地図に登録されているが、発掘調査を行うのは今回が初めてである。航空レーザ計測のデータを用いて作成された赤色立体地図（図版第2）の成果により、3か所の古墳状隆起が確認されたため、各1か所ずつ調査区を設定して試掘調査を実施した。

第1調査区

遺跡地図上で3号墳に該当する古墳状隆起の頂部から裾部にかけて、1.5m×5mの調査区を設定した。表土直下で地山（第2層・第3層）を検出し、古墳ではなく自然地形であることが明らかになった。遺物は出土していない。

第2調査区

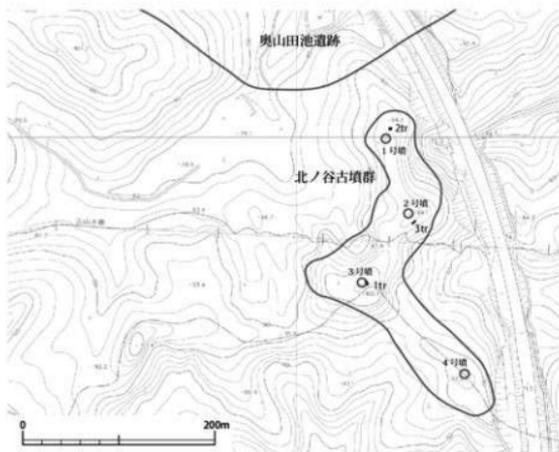
遺跡地図上で1号墳に該当する古墳隆起の頂部から裾部にかけて、3m×3mの調査区を設定した。自然堆積土（第2層～第4層）及び地山（第5層）を検出し、第1調査区と同じく自然地形であることが明らかになった。遺物は出土していない。

第3調査区

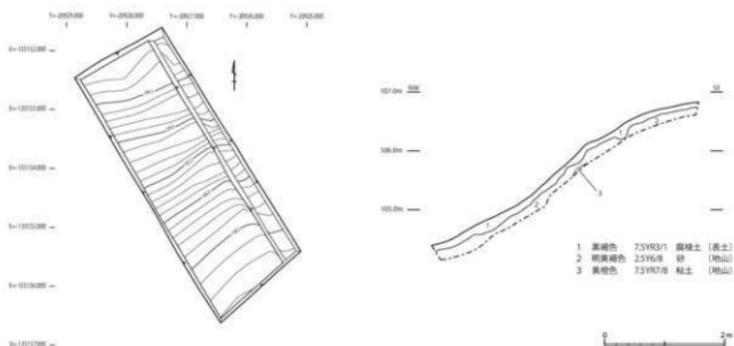
遺跡地図上で2号墳に該当する箇所、1m×4.5mの調査区を設定した。表土（第1層）の下から旧表土（第2層）及び自然堆積土（第3層・第4層）、地山（第5層）を検出し、同じく自然地形であることが明らかになった。遺物は出土していない。

総括

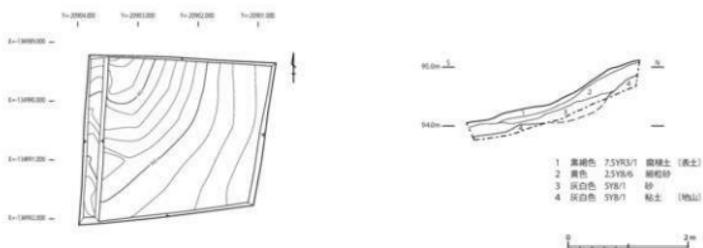
今回の調査において遺構・遺物の出土はなく、いずれも古墳ではなく自然地形であることが明らかになった。



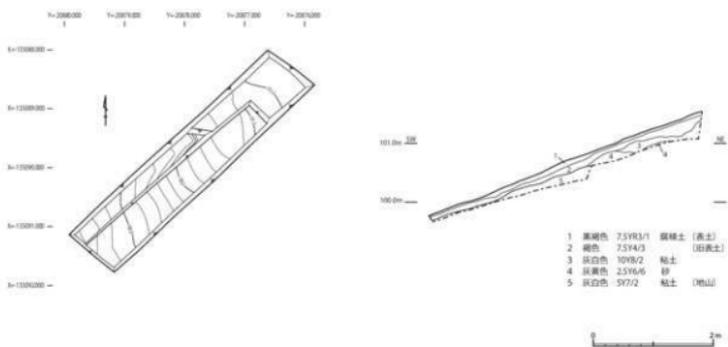
第3図 北ノ谷古墳群 調査区配置図 (S=1/5,000)



第4図 北ノ谷古墳群 第1調査区平面図・北東壁断面図 (S=1/80)



第5図 北ノ谷古墳群 第2調査区平面図・西壁断面図 (S=1/80)

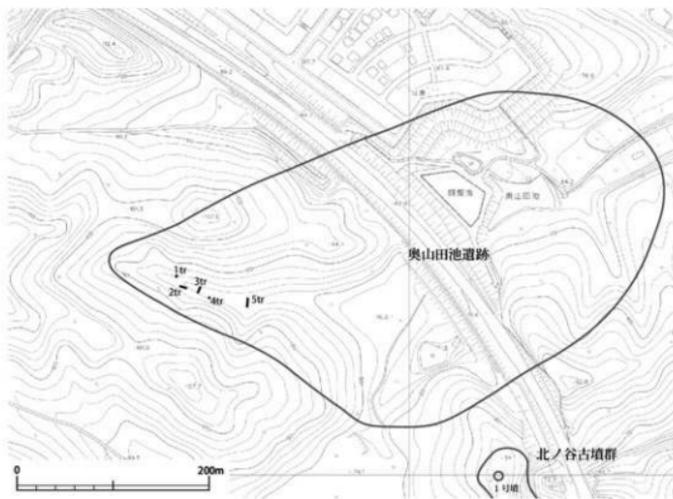


第6図 北ノ谷古墳群 第3調査区平面図・北西壁断面図 (S=1/80)

第4章 奥山田池遺跡の調査

奥山田池遺跡は、京奈バイパス（現在の京阪奈自動車道）の建設計画に伴い、昭和47年（1972）及び同57年（1982）に行われた京都府教育委員会の分布調査によって確認された遺跡である。奈良時代と考えられる須恵器・土師器・瓦などが採集され、散布地として遺跡地図に登録された。昭和59年（1984）には（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センターによる発掘調査が実施され、コンテナ15箱分の遺物（須恵器・土師器・瓦など）が出土した。付近に窯跡が存在する可能性が指摘されたものの、遺構は検出されず、遺物の出土状況から窯体及び灰原は流失した可能性が考えられる。また、調査対象地区内及びその付近には、大正から昭和にかけて操業した火薬製造所に関連する建物跡や土塁などが点在する。

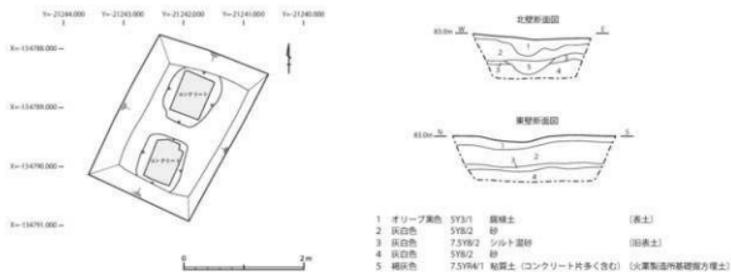
今回の調査に先立ち、京都府教育委員会及び京田辺市教育委員会が踏査を行った。その成果にもとづき、人工的な地形改変の可能性が考えられる谷筋に、5か所の調査区を設定して試掘調査を実施することとなった。



第7図 奥山田池遺跡 調査区配置図 (S=1/5,000)

第1調査区

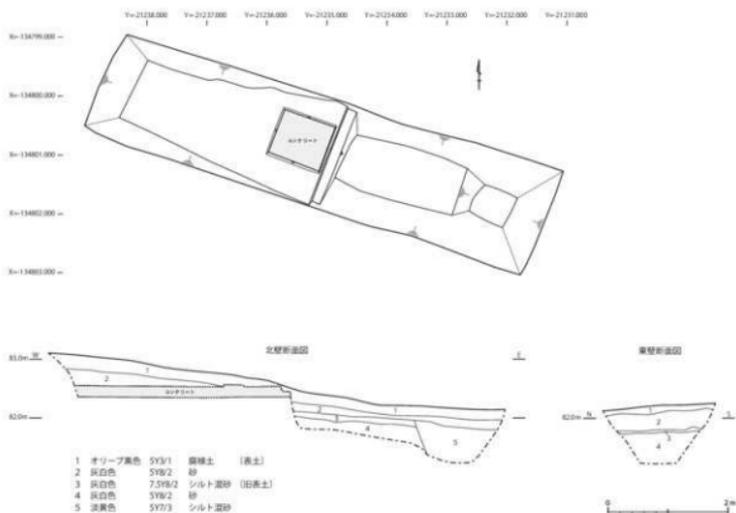
谷間の平坦地に2m×3mの調査区を設定した。表土及び自然堆積土(第2層)の下層で火薬製造所跡建設時の表土(第3層)を確認した。調査区中央部に火薬製造所に関わる建物の基礎と考えられるコンクリートが検出されたが、近世以前の遺構は確認できなかった。遺物も出土していない。



第8図 奥山田池遺跡 第1調査区平面・断面図 (S=1/80)

第2調査区

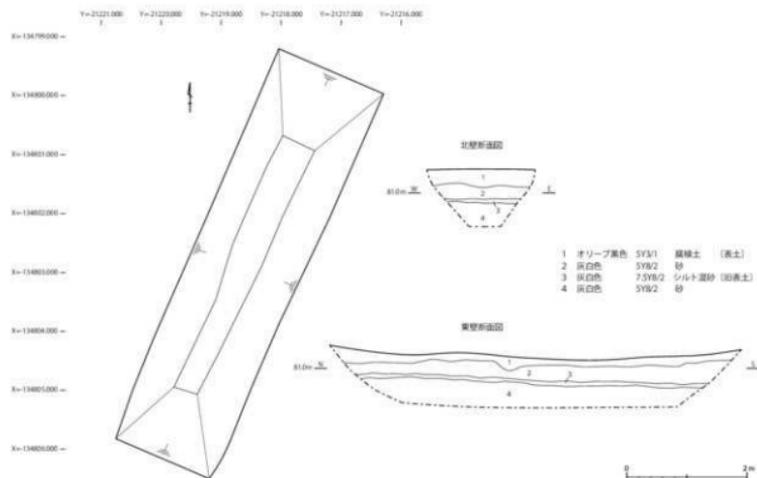
斜面に交差するように、2m×8mの調査区を設定した。調査区西半分で火薬製造所のものとみられるコンクリートを検出し、それ以上掘り下げるができなかった。調査区東端で土坑のような落ち込み(第5層)を検出したが、火薬製造所に関わるものと考えられる。遺物は出土していない。



第9図 奥山田池遺跡 第2調査区平面・断面図 (S=1/80)

第3調査区

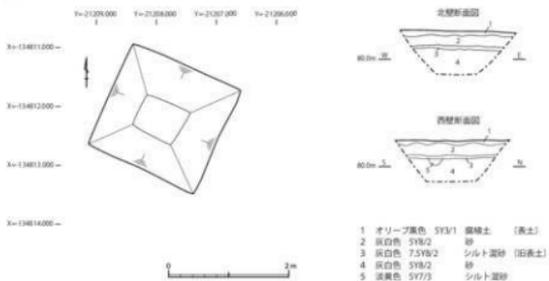
平坦地に2m×7mの調査区を設定した。旧表土直下で自然堆積土（第4層）を検出した。遺構・遺物ともに確認されなかった。



第10図 奥山田池遺跡 第3調査区平面・断面図 (S=1/80)

第4調査区

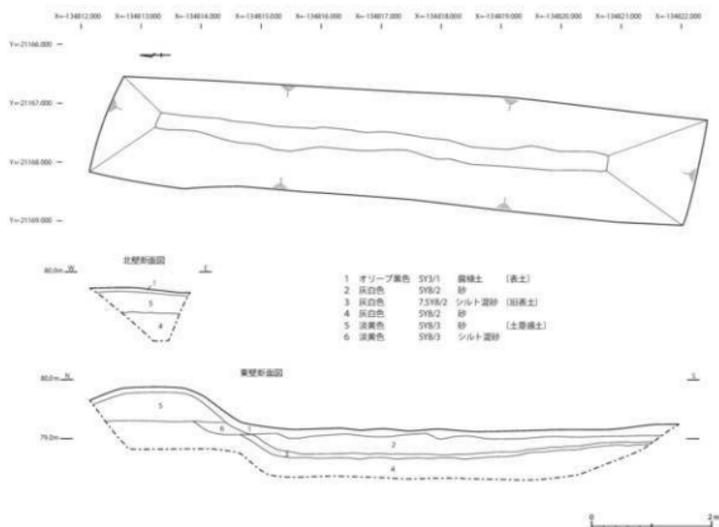
平坦地に2m×2mの調査区を設定した。旧表土直下で自然堆積土（第4層）を検出した。遺構・遺物ともに確認されなかった。



第11図 奥山田池遺跡 第4調査区平面・断面図 (S=1/80)

第5調査区

火薬製造所の土塁にかかる箇所に、2m×10mの調査区を設定した。断面から、旧表土を削って平坦面を作り、その上に土塁を築いている様子が確認できた。旧表土直下で自然堆積土（第4層）を検出し、掘削を終了した。遺物は出土していない。



第12図 奥山田池遺跡 第5調査区平面・断面図 (S=1/80)

総 括

今回の調査では、近世以前の遺構・遺物は確認されなかった。地山は検出していないが、灰白色砂層（第4層）以下に遺構は存在しないと考えられる。

一方で、火薬製造所跡については、第1・第2調査区で建物の基礎と思われるコンクリートを検出し、調査地近辺にもかつて建物が存在したことが明らかになった。

第5章 総括

今回の調査では、いずれの遺跡でも遺構や遺物は確認されず、北ノ谷古墳群は古墳ではないことが明らかになった。奥山田池遺跡では過去の調査で多くの奈良時代のものと思われる遺物が出土しているが、今回の調査では遺物は全く出土せず、調査地付近は火薬製造所が建設されるまで未開発の山林であったと考えられる。

参考文献

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1985「京都府遺跡調査概報」第16冊

圖 版

図版第 1



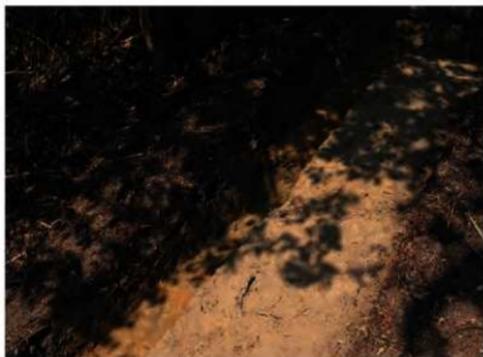
調査地空中写真（北東から）

図版第2



赤色立体地図 (S=1/5,000)

図版第3



(1) 北ノ谷古墳群 第1調査区
全景 (西から)



(2) 北ノ谷古墳群 第2調査区
全景 (東から)



(3) 北ノ谷古墳群 第3調査区
全景 (南から)

図版第4



(1) 奥山田池遺跡
第1調査区掘削前(東から)



(2) 奥山田池遺跡
第1調査区全景(東から)



(3) 奥山田池遺跡
第2調査区掘削前(東から)

図版第5



(1) 奥山田池遺跡
第2調査区全景(東から)



(2) 奥山田池遺跡
第2調査区東壁土層断面
(西から)



(3) 奥山田池遺跡
第3調査区全景(北東から)

図版第 6



(1) 奥山田池遺跡
第3調査区埋戻し後
(東から)

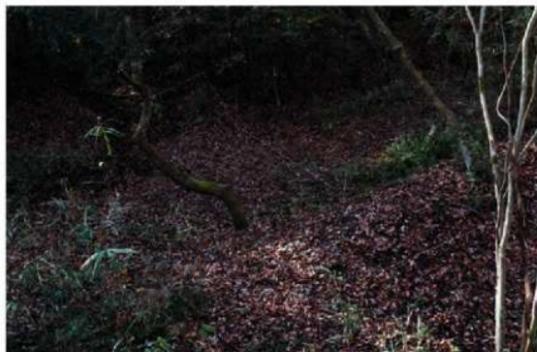


(2) 奥山田池遺跡
第4調査区掘削前(東から)



(3) 奥山田池遺跡
第4調査区全景(北から)

図版第 7



(1) 奥山田池遺跡
第5調査区掘削前
(北東から)



(2) 奥山田池遺跡
第5調査区全景(北東から)



(3) 奥山田池遺跡
第5調査区西壁土層断面
(東から)

報告書抄録

書名	南田辺西地区発掘調査報告書							
副書名	北ノ谷古墳群・奥山田池遺跡の試掘調査							
巻次								
シリーズ名	京田辺市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第43集							
編著者名	京田辺市							
編集機関	京田辺市							
所在地	〒610-0093 京都府京田辺市田辺 80							
発行年月日	西暦 2022 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
北ノ谷古墳群	京都府京田辺市 宮津北ノ谷	20211	106	34° 46' 54"	135° 46' 19"	20180314 ～ 20180330	約 20	学研都市開発
奥山田池遺跡	京都府京田辺市 三山本奥山田	20211	065	34° 47' 07"	135° 46' 12"	20181217 ～ 20190121	約 60	学研都市開発
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
北ノ谷古墳群	古墳	古墳時代	なし		なし			
奥山田池遺跡	散布地	奈良時代	なし		なし			
所収遺跡名	要 約							
北ノ谷古墳群	学研都市開発計画に伴い、古墳状隆起の試掘調査を実施した。遺構・遺物はみられず、古墳ではなく自然地形であることが明らかになった。							
奥山田池遺跡	学研都市開発計画に伴い、試掘調査を実施した。近代の火薬製造所に関わる建物基礎等を検出したが、近世以前の遺構や遺物は確認されなかった。							

南田辺西地区発掘調査報告書

北ノ谷古墳群・奥山田池遺跡の試掘調査

発 行 令和4年3月31日

編 集 京田辺市 市民部
文化・スポーツ振興課

発 行 京田辺市
〒610-0393 京都府京田辺市田辺80

印 刷 株式会社 京阪工技社
〒573-1192 大阪府枚方市西禁野2丁目4-18